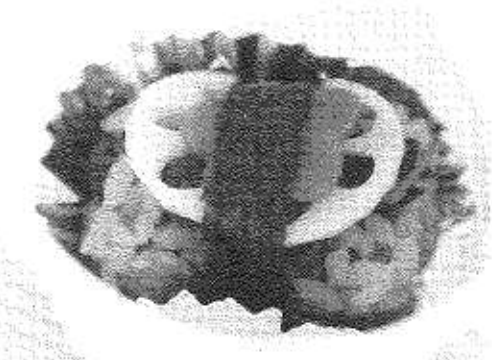


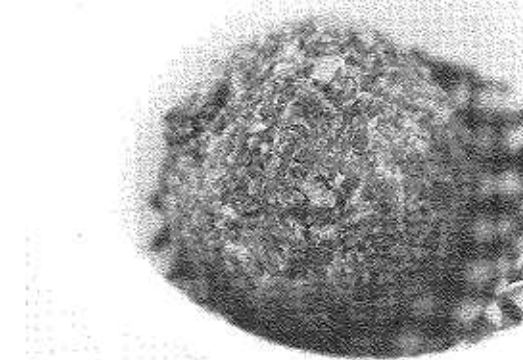


直売所に新メニュー  
 頼もしい学生パワー  
 食と農を考える 大学生ネットワーク  
 JA福岡中央会

# 頼もしい学生パワー



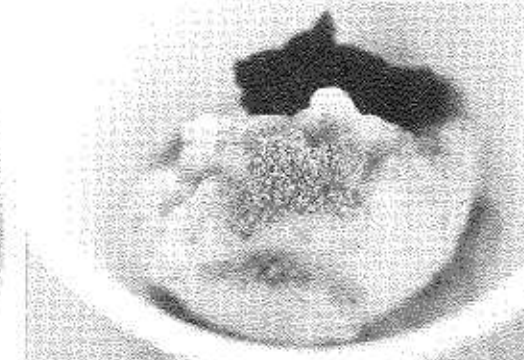
**「米ん娘マイマイ」**  
 (福岡女子大学・JA福岡みやこ)  
 イノシシ肉とネギが入った、しょうゆ味の炊きこみご飯のおにぎり「みやこのいのこ」。ニンジンの赤とレンコンの白で見た目も華やか



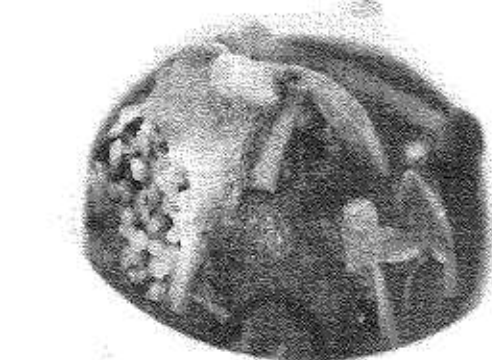
**「げんきやまっこ」**  
 (九州大学・JA筑紫)  
 ライスコロッケ「うめっこぼくだん」は、食感の三重奏。外側サクサク、中の鶏めしはもちもち、サトイモやナガイモがねばねば。太宰府名物のウメが爽やかに香る



**「なかむらいす」**  
 (中村学園大学・JA福岡市)  
 食物繊維が豊富なキノコがたっぷり入った「しいタコライス」。白みそを利かせたマイルドな辛さもポイントだ



**「美味しいご飯作り隊」**  
 (日本赤十字九州国際看護大学・香蘭女子短期大学・JA糸島)  
 「ミルラアイス」は、直売所の看板商品の牛乳とご飯を組み合わせたアイス。きな粉とあんこをトッピングし、和の雰囲気



**「FSN16」**  
 (福岡大学・JAにじ)  
 黒米の入った米と旬の野菜、博多和牛や名産のトマトやチーズも入っている栄養たっぷりの「ロールキャベツライス」

地元の大学生とJAの直売所や加工グループがタッグを組んで直売所の新メニューを開発。五チームが農林水産まつりで競い合った。地域の農産物のよさをもっと知り、広めよう。学生の行動が、福岡県の食と農を元気にしている。  
 写真・八木栞也

昨年十一月二十日、福岡市で開催された第十八回福岡県農林水産まつりで、「大学生対抗 直売所グルメ 選手権」が行われた。

参加したのは、県内六大学の学生とJAの直売所や加工グループで構成した五つのチーム。日本人の食に欠かせない米と、地域の食材を生かし、「食べて幸せ。お米料理」をテーマに開発したメニューで、順位を競い合った。ホテルニューオータニ博多の山口雅美シェフを審査委員長に、JA福岡中央会の林達也専務理事ら五人の審査員と、試食した来場

者三百人の一般審査員の投票で審査が行われた。

主催は、JA福岡中央会と県内八大学の学生二十五人で組織する「食と農を考える」大学生ネットワーク。ネットワークは、これから社会人となる学生に食べ物や農業への関心と理解を深めてもらい、福岡県の農業・農産物への愛着心を育むことを目的に昨年五月、設置された。

## 地域の農産物を生かした自信作が完成

三か月と短い準備期間のなか、学生たちは、メニューづくりに奔走した。就職活動をしなが、往復二時間以上かけて直売所へ通ったという学生も多い。地場産品率七二パーセントの「ロールキャベツライス」を作った「FSN16」(F=福岡、S=スポーツ、N=Nutrition=栄養)は、トマトビュレを看板商品とする直売所の加工場にも足を運んだ。さらに、スポーツ科学専攻を生かしたメニューづくりには熱い思いが。「JAにじ農産物直売所「耳納の里」には、六回足を運び、利用者層も調査しました。子どもやお年寄りが多かったことから、カルシウムとビタミンBを多く摂取できるように、レシピを考案しました」「なかむらいす」のメンバーは、直売所で販売されている農産物のリストアップから始めた。それを参考に、一人一人が





野菜ソムリエや料理人の審査員のみなさんに、最後のPR。審査項目は、地域性・味・アイデアの3つ



200人分の試食用料理は、約20分で配布が終了。食べる人を笑顔にしたい、元気にしたいという思いも伝わったはず

## 活動をとおして 気づいたことを発表!

### 「たべものと命を考えるシンポジウム」

昨年十二月十日、「たべものと命を考えるシンポジウム」が福岡市で開催され、農業体験やグルメ選手権などの活動から学んだことを学生たちが発表し合った。ネットワーク委員の声かけにより、県内の大学生を中心に三百二十六人が出席した。

J A福岡県青年連盟委員長の遠藤友彦さんが講演し、被災地の状況と農業者の様子が参加者に伝えられた。遠藤さんは、「怖がらずに福岡に来てください。農家と直接話し、納得して福岡産農産物を購入し、みなさんの口から安全を伝えてほしい。学生の方には地元のおいしい農産物を食べて、この土地に生まれてよかったと思っしてほしい」と、訴えた。

二人の学生が遠藤さんと対話し、正確な情報を捉え、発信できる人間になること、自分たちの経験を次世代につなげることの重要性を再認識した。

パネルディスカッションでは、五人の学生が登場。日本農業新聞で、直売所や出荷者取材する記者を体験した学生は、農産物を作る生産者のこだわりを知ったと発表。栄養をビタミンなど記号で捉えるのではなく、食の向こう側にある生産者の思いや農業の存在



学生たちは、直売所に行き、農産物を自分の目で見て、味わってほしいと、出席者に呼びかけた(写真・JA福岡中央会)

を、子どもたちに伝えられる管理栄養士になりたいと語った。食と農のたいせつさを周囲の人々に伝える架け橋になりたいというのが、発表者全員に共通した思いだった。

出席した香港からの留学生は、アグリスクールにぜひ参加したい、直売所にも足を運び、生産者と話したいと、配布された「JA農産物直売所マップ」を開いていた。

シンポジウムは、ネットワーク委員から同世代へ、新たに食と農を支える仲間の輪が広がった三時間だった。

レシピを考案。味や見た目のほか、商品化、作業効率なども考え合わせ、加工グループと打ち合わせを重ねた。試作を繰り返して、肉の代わりにJA福岡市の特産エノキタケなど、キノコ類とミズナを使ったヘルシーなタコライスを完成させた。この他にも、ご飯と牛乳を組み合わせたアイスクリーム料理の「鶏めし」をライスコロケに変身させるなど、学生ならではの発想で、地域性にとことんこだわった力作が誕生した。

選手権当日、自分たちや直売所スタッフが作ってくれた料理が次々に会場に届くと、学生たちはすぐに盛りつけ作業を開始。二百人分という量の多さに戸惑いながらも、彼らの表情は、晴ればれとして、自信作を食べてもらおう喜びにあふれている。

「試食の準備のために、直売所の方が三時起きで作ってくれました。ぜったいに優勝の報告をしたいと思います」

意気込みも十分だ。

十一時。審査員らによる審査会がスタートし、三十分後、一般審査も始まった。学生の思いは届いたのだろうか……。

「手が進んでいて、どれもおいしい。一番を決めるのは、難しいですね」(四十年代・女性)

「学生はカップ麺などで簡単に食事を済ませてしまいうイメージがあったが、きちんと考えているんですね。このような取

り組みには大賛成」(五十代・男性)

審査の結果、優勝に輝いたのは、「米ん娘マイマイ」チームの「みやこのいのこ」。直売所で販売される身近な食材だが、かたくて臭いと敬遠されがちなイノシシ肉を幅広い年代に好まれるよう味つけし、ご飯に混ぜこんだおにぎりだ。

結果発表に喜び、驚き、悔しがり。思いはさまざまだが、学生の顔には達成感の三文字が表れていた。

応援に駆けつけたJA筑紫女性部「うめっこ」の斉藤マチ子さん(56)は、「食べ物の『旬』をだいににしてみたい。わたしたち主婦では考えられない発想があり、驚いた」

と語り、JAに農産物直売所「耳納の里」の柳七美江さん(56)は、「地元よい食材がたくさんあることを知ってほしい。農産物と生産者を理解し、それらを広めるという取り組みに携わることができて、とても楽しかった」

と、これまでを振り返った。

参加した学生からは、食にたいする考え方が変化したという声が多く挙げられた。

「将来、自分の子どもにも、おいしくて安全なものを食べさせたい。そのためには、わたし自身が、見極められないといけない。安価な輸入品に頼らず、国産農産物を食べて、よいものがわかる舌を持ちたいと思うようになった」

グルメ選手権実行委員長の内田安貴さん(21)は、栄養や教育、スポーツに看護と多様な学部の学生が食と農を考えることでつながり、一つになれたと言いつつ、自身も看護を学ぶ学生の一人として、将来の抱負を次のように語った。

「医食同源という言葉があるが、看護と食や農業が『命』という大きな枠組みでつながっていることを伝えたい。薬や病院の治療だけでは、健康を維持することができない。食農教育の視点を持った看護師として活動していきたい」

ネットワーク設置に当たった同中央会農業対策部の古賀美智子さんは、「取り組みに参加した学生が、自分が気づいた食と農のたいせつさを周囲の人々に広めてくれる。こんなうれしいことはない。今後の彼らの行動に期待しています」

と、温かいまなざしを送った。

学生たちが考案した料理は、期間・季節限定ながら各直売所で販売。もしくは併設のレストランで味わうことができる。足を運ばずにはいられない。



健康の維持には、安全・安心な農産物を食べることが不可欠です、と笑顔で語る内田さん

農を  
人たちの  
食と  
担  
担  
担

# 地上

GOOD EARTH

4月号 定価650円 (本体619円)

【特集】  
「農地・水」「環境保全」対策の軌跡とこれから

農政改革の柱の一つとして2007年度から始まった農地・水・環境保全国上対策は地域活性化にも効果がありました。11年度からは「農地・水保全管理支払交付金」と「環境保全型農業直接支援対策」に衣替えされています。5年間の地域の変化を追い、今後の展望を探ります。

【特別企画】こう活用する  
おれたちの「ポリシーブック」

JA青年組織は2011年度、自分たちがめざす農業のあり方や自分たちが取り組むこと、JAや行政に要望・提言することなどを盛り込んだ「ポリシーブック」を作っています。それを活用した広報、意見交換、要請活動などの状況をレポートします。

【別冊付録】解説 農業協同組合の力  
基本を再確認するためのハンドブック

※企画・内容は変更することがあります。ご了承ください。

定価 550円 (税込・付録とも)

# ちゃぐりん 4月号

別冊付録 簡単! 楽しい! はじめての料理BOOK

包丁の持ち方やごはんのたき方、だしの取り方など料理の基本から、季節の料理やお菓子の作り方といった応用まで紹介するよ。

大きい小さい  
カレンダー  
おどろきと発見がいっぱい!

【ためになる特集】  
世界の小学生  
沖縄美ら海水族館の舞台裏  
直売所へ行ってみよう!  
すごいぞ! 鉛筆  
このウンチだれの?  
種の不思議

【おもしろいまんかかずらり!】  
モグモグ研究所  
火の球ベース  
神わざ★くっく!  
まんが偉人伝 いのちの歴史  
育ててみよう やさしくん  
いちばん元気くん ほか

ほかに企画が盛りだくさん!

●タイトル・内容は変更することがあります。ご了承ください。  
●「ちゃぐりん」のお申し込みはお近くのJA(農協)へ。